

オスプレイ要員 250人滞在へ

米軍厚木基地

防衛省南関東防衛局は11日、米海軍厚木基地(神奈川県綾瀬、大和市)で30日から米海兵隊MV22オスプレイ6機などの整備・給油を行い、整備・支援要員として米軍人250人が同基地に滞在すると地元自治体に通知

住民が抗議

しました。地元市民は抗議の声を上げています。今回の同基地使用は、12月4日〜17日に自衛隊王城寺原演習場(宮城県)などで予定されている日米合同演習「レンジャー・ト・ドラゴン21」に伴うもの。沖縄在留米海兵隊と陸上自衛隊とでMV22(10機程度)やAH攻撃ヘリなどを使い、兵員の輸送・投入(ヘリボン)訓練を行うとしています。今年6月、厚木基地に隣接する工場を持つ日本飛行機(NIPPON)が米軍オスプレイの定期整備を受注したことが判明。今後、オスプレイの新たな整備拠点としての使用が見込まれています。「爆音をなくし、米空母の母港に反対する厚木基地周辺住民の会」の宮内勝幸事務局長は「これだけの人員が滞在するのは異常なこと。航空機の頻繁な往来による住民の安全も心配です。厚木基地が戦闘訓練の拠点に使われるということに強く抗議したい」としています。